

第7回国際コンファレンス

アジアの成長と金融セクターの役割

セッションII 「アジア各国における金融セクターの金融規制・監督の現状」

アジア諸国における金融セクター及び

規制フレームワークの現状：

タイのケース

バンディド・ニジャタウォーン
前タイ中央銀行副総裁

概要

タイの金融セクターは、過去10年の間、再構築、調整、再生の過程を経てきた。アジア金融危機以降実施された規制・監督フレームワークの改革は、金融セクターの再建と強化において重要な役割を果たし、より健全で弾力性のある金融システムをもたらした。強化された金融システムは、タイ経済への世界的な金融危機の影響を軽減し、経済を回復軌道に乗せるのに貢献した。これらの改革の鍵は、銀行セクターの整理統合、資本市場の深化と拡大への取り組み、バーゼルIIやIAS39に基づく規制・監督基準の改革、金融セクターの法的フレームワークの改革であった。金融セクターのさらなる強化に向けた改革は、第2次金融マスタープランの広範な課題に沿って現在も続いている。マスタープランは、競争を促すことによる金融システムの効率向上、不良債権問題への取り組みによる金融システムのコスト低下、金融サービスへのアクセス拡大、金融市場・インフラの改善・高度化による銀行のリスク管理能力の強化に焦点をあてるもので、その重要性は直近の世界金融危機によって強く認識されるようになっている。